

「新しい年の始まりにあたり」

校長 濱 中 昌 志

新しい年、丙午（ひのえうま）の年を迎えました。保護者の皆様におかれましては、穏やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願ひいたします。

丙午は、十干十二支の中でも「強い意志」「行動力」「変化を恐れず前へ進む力」を象徴するといわれています。様々な言い伝えもありますが、私は困難に立ち向かい、新しい価値を切り拓いていく力を表す干支として捉えたいと思っております。

まさに今、子どもたちは成長の途中にあり、迷い、悩みながらも、一歩ずつ前へ進んでいます。本校では、そうした一人一人の歩みを大切にしながら、互いを思いやり、認め合い、支え合う教育を進めます。

新しい年の始まりにあたり、今年も「世界一、優しい学校を目指そう」という思いを、改めて胸に刻み、一年を締めくくるこの3学期に、子どもたちが自分の可能性を信じ、仲間とともに成長できるよう、引き続き丁寧に関わってまいります。

さて、始業式の挨拶において「世界一、優しい学校」を今年も目指すこと、『ごめんなさい』よりも『ありがとう』を多く使うこと、そして3学期は、これらの言葉を日々の行動として根付かせていく学期にしたいという話をしました。

家族や親戚、友だちに、地域の方々に、そして自分自身に向けて、感謝の気持ちを言葉にできる子どもたちであってほしいと願っています。

また、「アンコンシャス・バイアス（無意識の思い込み）」という考え方についても、生徒たちに伝えました。人は誰でも、これまでに見聞きしたことや周囲の言葉、社会の情報などから、知らず知らずのうちに「こういうものだ」と決めつけてしまうことがある。その思い込みは、本人に悪気がなくても、相手を傷つけたり、可能性を狭めてしまったりすることがある

愛宕中が目指す「世界一優しい学校」とは、誰もが安心して、自分らしく過ごせる学校のことであり、

そのために、

- ・すぐに決めつけないこと
- ・「本当にそうだろうか」と立ち止まって考えること
- ・知らないことを正しく知ろうとすること

こうした姿勢を、学びを通して育てていきたいと考えています。

3学期、3年生にとっては、何気ない日常の全てが、学校に残る大切な「足あと」となります。卒業の日に、一人一人が「やり遂げた」という誇りを持って校門をくぐれるよう、温かく見守ってまいります。

在校生にとっても、1年生は「先輩」へ、2年生は「最高学年」へと、心構えを整える期間となります。

それぞれの自覚が、学校に新しい風を吹き込んでくれることを確信しています。

本校が目指す「世界一優しい学校」。

それは、互いの良さを認め合い、感謝の言葉「ありがとう」が自然に飛び交う場所です。自分の思い込みに気づき、学びを深める中で、そんな温かい空気感を生徒と共に創り上げたいと思います。

あの学校祭で皆の心を震わせた歌声が、卒業式の会場で再び響き合うことを楽しみにしています。

保護者の皆様、今学期もよろしくお願ひいたします。